

[成果情報名] ブドウ苗木生産における低樹高一文字仕立てによる台木の省力栽培と苗ほのマルチ被覆による成苗率向上

[要約] ブドウ台木は、主幹長50cmの低樹高一文字仕立てで栽培することで、新梢管理作業における腕を肩より上げる姿勢の作業時間が削減でき、樹冠面積当たりの採穂数が増加する。成苗率は苗ほに黒ポリマルチを被覆することで向上する。

[キーワード] ブドウ苗木、低樹高一文字仕立て、成苗率、マルチ

[担当] 福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター・苗木・花き部・苗木チーム

[代表連絡先] 0943-72-2243

[分類] 普及成果情報

[背景・ねらい]

ブドウ台木の樹勢は強く、新梢管理では腕を肩より上げる姿勢（以下、不良姿勢）の作業を長時間余儀なくされ、身体的負担が大きい。そのため、苗木生産者は台木の栽培を敬遠しており、台木の不足が課題となっている。また、ブドウ苗木の成苗率が低い要因の一つに、苗ほの土壤乾燥による生育不良が挙げられ、福岡県内の需要量を満たせていない。そこで、ブドウ苗木の安定生産を目的に、台木の低樹高一文字仕立てによる省力栽培方法と黒ポリマルチの被覆による成苗率向上技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. ブドウ台木の低樹高一文字仕立ては、主幹長50cm、主枝長2mとして、新梢は直上方向に誘引し、地上180cmの高さで捻枝後に直下方向に誘引する（図1）。
2. 低樹高一文字仕立ては、新梢管理における不良姿勢作業の時間が削減され、割合も減少する（表1、一部データ略）。
3. 低樹高一文字仕立ての定植3年目の樹冠面積当たり採穂数は、「テレキ5BB」と「イブリッド・フラン」とともに、平棚仕立て（慣行）より多い（図2）。
4. ブドウ苗木は黒ポリマルチを被覆した苗ほに定植することで、生育が促進され、特等苗率と成苗率が向上する（表2）。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：苗木生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：久留米市田主丸町において1ha
3. 低樹高一文字仕立てに必要な果樹棚は、直管パイプ（25.4Φ）と番線（＃12）を使って自家施工可能で、1樹当たりの資材費は約3,600円である。

[具体的データ]

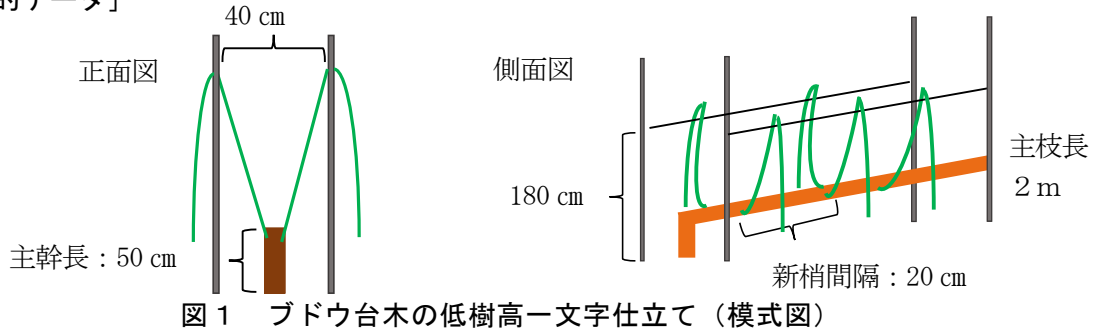


表 1 低樹高一文字仕立てにおける新梢管理時間と不良姿勢作業時間（令和3年）

試験区	新梢管理時間 (分：秒)	うち不良姿勢作業	
		時間 (分：秒)	割合 (%)
低樹高一文字仕立て	56:56	13:27	23.6
平棚仕立て (慣行)	69:22	68:04	98.1

- 注) 1. 供試品種は「テレキ5BB」
 2. 新梢管理時間は、1樹当たり6回（4～8月）の作業時間の合計
 3. 不良姿勢作業は、腕を肩より上げる作業
 4. t検定により、5%水準で*は有意差あり、n. s. は有意差なし

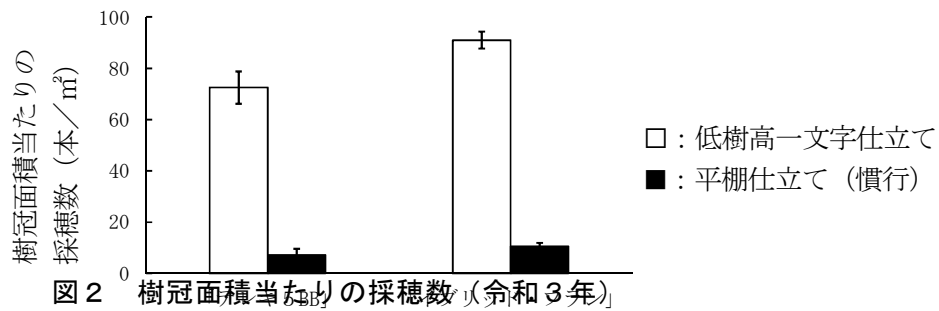


図 2 樹冠面積当たりの採穂数 (令和3年)
 注) 1. 採穂数は、直径6.0mm以上かつ長さ25cm程度の枝の数
 2. 図中の垂線は標準誤差を表す

表 2 苗ほのマルチ被覆が「巨峰」苗木の生育と成苗率等に及ぼす影響

試験年	マルチ	苗径 (mm)	特等苗率 (%)	一等苗率 (%)	成苗率 (%)
令和2年	あり	7.3	77.8	22.2	100.0
	なし	4.2	0.0	57.1	57.1
令和3年	あり	6.2	68.8	31.3	100.0
	なし	4.0	0.0	53.3	53.3

- 注) 1. 苗径は、接ぎ木部より30cm上部の径
 2. 苗丈60cm以上で特等苗率は苗径6mm以上、一等苗率は苗径4mm以上の苗の割合
 3. 成苗率は特等苗率と一等苗率の合計
 4. 統計処理により5%水準で*は有意差あり

(四宮 亮・松本和紀)

[その他]

予 算 区 分：国庫受託（農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究「果樹等の幼木期における安定生産技術の開発」（JPJ008720））

研 究 期 間：2019～2021年度

研 究 担 当 者：四宮 亮、井樋昭宏、田中莉依、松本和紀

発 表 論 文 等：なし